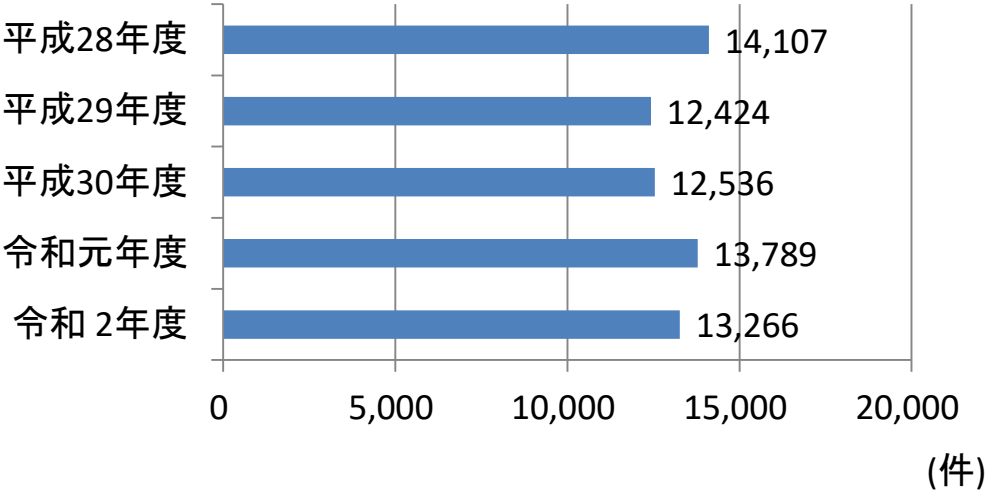


20 病理組織診断件数

解説	<p>病理診断の結果に基づいて、治療の必要性や治療方法が選択されます。病気の最終・確定診断がどの程度行われているかを表す指標です。大学病院は高度な治療を行うだけでなく、その前提となる診断が適切になされることが肝要であり、正確な診断にも同じ重きを置いています。正確な診断の最終根拠として、病理診断が要ですが、診療全体の中で病理診断が必要となる状況がどの程度あるかを示します。</p>												
実績	 <table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成28年度</td><td>14,107</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>12,424</td></tr><tr><td>平成30年度</td><td>12,536</td></tr><tr><td>令和元年度</td><td>13,789</td></tr><tr><td>令和2年度</td><td>13,266</td></tr></tbody></table>	年度	件数	平成28年度	14,107	平成29年度	12,424	平成30年度	12,536	令和元年度	13,789	令和2年度	13,266
年度	件数												
平成28年度	14,107												
平成29年度	12,424												
平成30年度	12,536												
令和元年度	13,789												
令和2年度	13,266												
定義	<p>1年間の医科診療報酬点数表における、「N000 病理組織標本作製(T-M)」及び「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP)」の件数です。入院と外来の合計とします。細胞診は含めません。</p>												